

●発行/公益財団法人しまね女性センター ●編集/情報Market編集委員
〒694-0064 島根県大田市大田町大田イ236-4 島根県立男女共同参画センター「あすてらす」
TEL 0854-84-5500(代) FAX 0854-84-5589 URL <http://www.asuterasu-shimane.or.jp/> E-mail asu-01@asuterasu-shimane.or.jp



会員の輪

「私が思う男女共同参画」

くろだゆういち
黒田祐一（松江市）



今回ご紹介するNewフェイスのあすてらすネットワーク会員は、松江市で教職をされている黒田祐一さんです。職場では男女共同参画推進委員の委員長を務められ、学生たちに啓発活動を行っていらっしゃいます♪黒田さんの思われる男女共同参画についてご寄稿いただきました。

技術者教育と意識

私が教員として勤務している松江工業高等専門学校は、技術者を育成するための5年制の教育機関です。「何のために勉強するのか?」という問いに「技術者になるために必要だから」と明快に答えることができる、教員にとっては教えやすい学校です。で



も入学してくる学生たち全員が明確な目的意識を持っているわけではありません。「自由な学校だから」「普通高校には進みたくなかったから」「楽しそうだから」という

漠然とした理由で入ってくる子もいます。ところが教育の力というのはたいしたもの、そうした学生も上級生になると、ちゃんと物作りができるようになります。そして技術者としての自覚が自然と生まれ、社会に巣立って行きます。

基本的な生活技術とは

男女共同参画社会の実現には意識を変えることが必要ですが、私はこれまでの経験から、意識を変えるには基本的な生活技術を身につけることが必要だと思っています。それには、毎日の食事作りや買い物、洗濯、掃除といった家事全般から、育児、介護などが含まれます。生活技術が身に付いていれば、いつもは妻（または夫）が食事を作っているけれど、何かあった場合（仕事が忙しくて帰りが遅い、旅行、病気など）には、夫（または妻）が作って何の問題



もない、となるわけです。いくら意識が高くても、技術がなければ役に立ちません。料理を作るにしても、「年に数回だけ作る男の手料理」ではなく、メニューを考えて買い物をする、ご飯を炊く、味噌汁を作る、肉や魚、野菜を使いおかずを作る、皿を洗いゴミを分別して捨てる、といった知識と一連の技術が必要です。

将来に向けて

「女性にできることは男性もできる」「男性にできることは女性もできる」これが男女共同参画の基本だと思います。サッカーにたとえれば、一応フォワードとディフェンダーのポジションに分かれているけれど、いざとなればフォワードが守備をするし、ディフェンダーも攻撃に参加する、またそれだけの技術は持っている、ということでしょうか（ゆえに私は家事を分担するというやり方には賛成できません）。現在、夫婦共働きの世帯数は、どちらか片方しか働いていない世帯数をすでに上回っており、年々増加しています。今後、ますます高齢化が進んでいくこととあわせると、パートナーに何かあったときでも自立して生活できる技術を身につけることは、大きな強みとなることでしょう。それが男女共同参画社会の実現につながっていくと思います。





【分類番号: 女性問題 366.38 ヒ】

女、一生の働き方
貧乏ばあさん (BB) から
働くハッピーばあさん (HB) へ
樋口恵子 / 著

 海竜社 (2010/10)
高齢化が一層すすむなかで女性のおひとりさまが増えている。彼女たちの概ねは、年金などが頼りの経済的貧乏ばあさん (BB) であるが、実は高齢女性の持つスキルは高く、働き口はたくさんある。本書では、老いてこそイキイキ輝いて働くハッピーばあさん (HB) になるための方法や実例を紹介している。HBこそが未来を切り開く花咲かばあさんではないだろうか。 (ま〜)



【分類番号: 女性問題 366.38 サ】

妻母 (すごはは)
あのワーキングマザーが
「折れない」理由
佐藤留美 / 著

 東洋経済新報社 (2013/12)
ここに登場するのは、有名企業で活躍する女性たち。彼女たちは、仕事・子育ての悩みや不安、挫折をどのように乗り越えてきたのか。本書は、まさにサバイバルと言える彼女たちの時間管理術、仕事への向き合い方、夫や両親、職場の人間関係の作り方を紹介。環境やレベルの違いがあるにせよ、「自分の人生を楽しむ」という彼女たちの姿勢は魅力的である。 (まるみ)



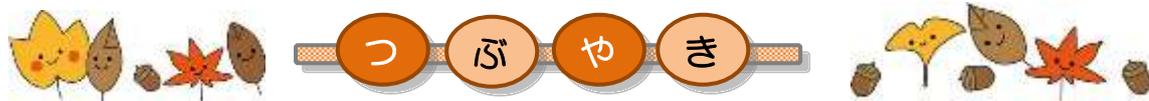
【分類番号: 女性問題 366.38 シ】

LEAN・IN
女性、仕事、リーダーへの意欲!
シェリル・サンドバーグ / 著、村井章子 / 訳
日本経済新聞出版社 (2014/5)

『LEAN・IN』とは直訳すると「前に傾く」という意味だが、自身もフェイスブック最高執行責任者 (COO) である著者は、男ばかりがトップの組織の中で、女性もリーダーになるために一歩「踏み出そう」というメッセージを込めている。非凡な能力の持ち主には違いないが、デキる女性がフェミニズムの本場アメリカでさえ歓迎されない現実に驚く。それだけに彼女の地道な努力や飾らない失敗談なども興味深く読むことができる。悩んでいる女性の背中を優しく押してくれる一冊。 (まゆ)

information

●情報ライブラリーでは、所蔵資料を紹介する目的で毎月テーマを決めて書籍等の展示・貸出を行っています。●6月のテーマは「女性に対する暴力をなくそう!」です。●テーマ展示や新着図書、DVD等の情報はホームページで随時お知らせしています。どうぞご利用ください。



夫婦問題を考える時、男女の格差、個々が持つ資産 (人脈・資格等) の格差の大きさは昔と少しも変わっていない。参画社会? 確かに女性は以前より社会に出てはいるけれど、その内の何人が自分資産に気づき、生かしているのでしょうか。今自分らしく生きるために、私はどれくらい資産を持っているのかと考えます。 (ちびぶた)

最近警察もののドラマが多い気がします。昔の婦人警官は制服でお茶くみをする職場のマスコット、ちょっと前はストーリー上特別な役柄だったような…。最近、その他大勢の捜査員や鑑識職員の中に女性の姿が見えます。つくりものの世界だけど、女性がそれなりに居るのが普通の風景だと表現されるようになってきているんだと感じます。 (さと)

あなたの情報
をお待ちして
います!

本紙の内容について、ご意見、ご感想をお寄せください。また、みなさまの活動についての情報や報告等もお待ちしております。住所・氏名(グループ名)・電話番号を明記の上、郵送、FAX、メールにてお送りください。原稿は400字以内(「つぶやき」は140字程度)、イラスト等は葉書大以内でお願いします。掲載させていただいた方には、500円分の図書カードをさしあげます。送付先、お問い合わせは、公益財団法人しまね女性センター事業課 (TEL.0854-84-5514) まで。

